

2015年 5月 29日

2015年3月期 決算説明会

第一実業株式会社

代表取締役社長 山片康司

証券コード：8059

1. 2015年3月期 決算概要
2. 事業概況
3. 2016年3月期 業績見通し
(中期経営計画最終年度)

◆ご参考資料

2015年3月期 決算概要

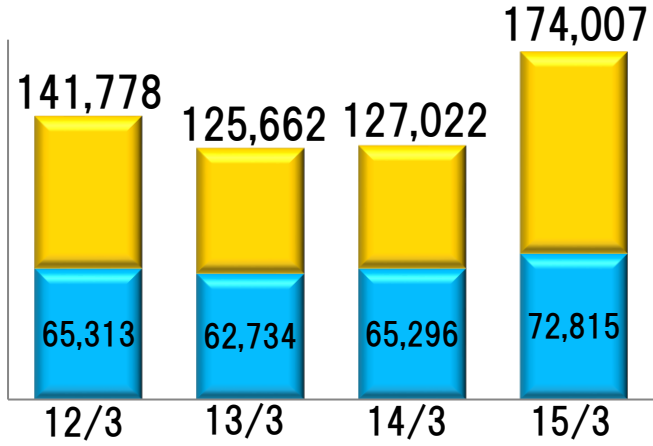
(百万円)

	14/3	15/3	増減
受 注 高	127,022	174,007	+46,985
売 上 高	122,102	143,361	+21,258
営 業 利 益	4,074	4,341	+267
経 常 利 益	4,475	4,752	+277
当 期 純 利 益	2,459	2,897	+437
1 株 当 た り 当 期 純 利 益	46.45円	54.46円	+8.01円
自己資本当期純利益率(ROE)	8.2%	8.7%	+0.5point
総資産経常利益率(ROA)	5.5%	5.5%	—

経営成績の推移(連結)

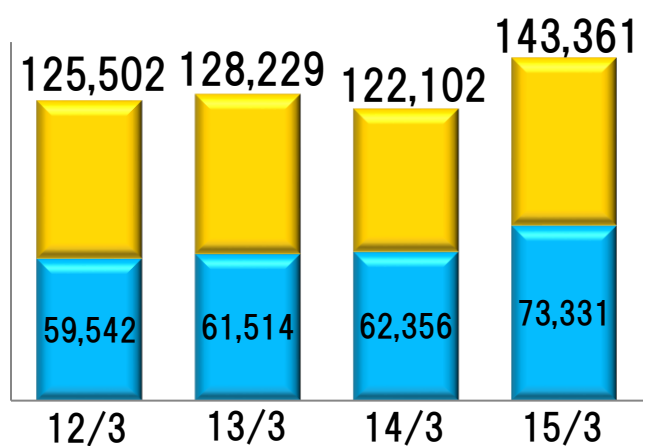
受注高

(百万円)



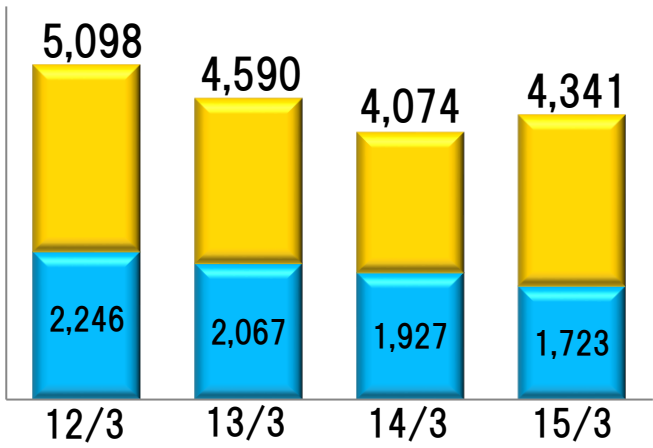
売上高

(百万円)



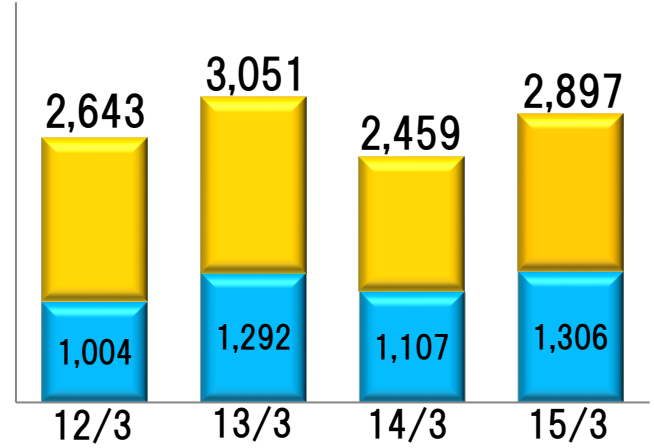
営業利益

(百万円)



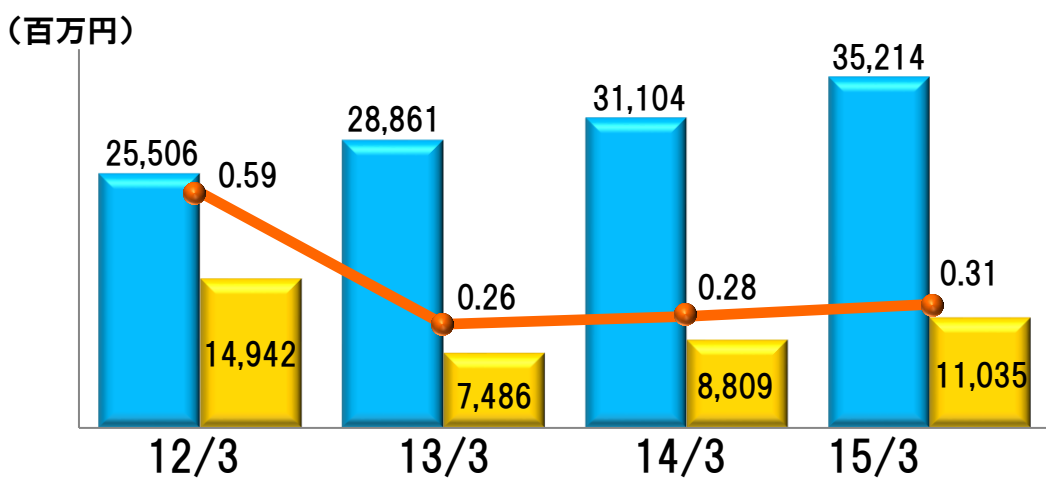
純利益

(百万円)



財務およびキャッシュ・フローの状況(連結)

■ 自己資本 ■ 有利子負債 —●— DER(倍)



	14/3	15/3	増減
自己資本	31,104	35,214	+4,110
有利子負債	8,809	11,035	+2,225
D E R	0.28倍	0.31倍	0.03point

DER = 有利子負債 ÷ 自己資本

- 営業活動におけるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の計上やプラント関連の前受金の増加などにより増加。
- 投資活動におけるキャッシュ・フローは、バイナリー発電装置に係る製造販売権の取得などにより減少。
- 財務活動におけるキャッシュ・フローは、借入金の増加などにより増加。

	14/3	15/3	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	911	3,835	+2,923
投資活動によるキャッシュ・フロー	△888	△4,024	△3,136
財務活動によるキャッシュ・フロー	423	1,450	+1,026
現金及び現金同等物の期末残高	13,585	15,234	+1,649

1. 2015年3月期 決算概要

2. 事業概況

3. 2016年3月期 業績見通し (中期経営計画最終年度)

◆ご参考資料

受注高

(百万円)

	14/3	15/3	増減
プラント・エネルギー事業	28,561	61,500	+32,939
エレクトロニクス事業	30,893	35,721	+4,828
産業機械事業	37,691	42,498	+4,806
海外法人	27,643	31,829	+4,185
その他	2,232	2,456	+224
合計	127,022	174,007	+46,985

売上高

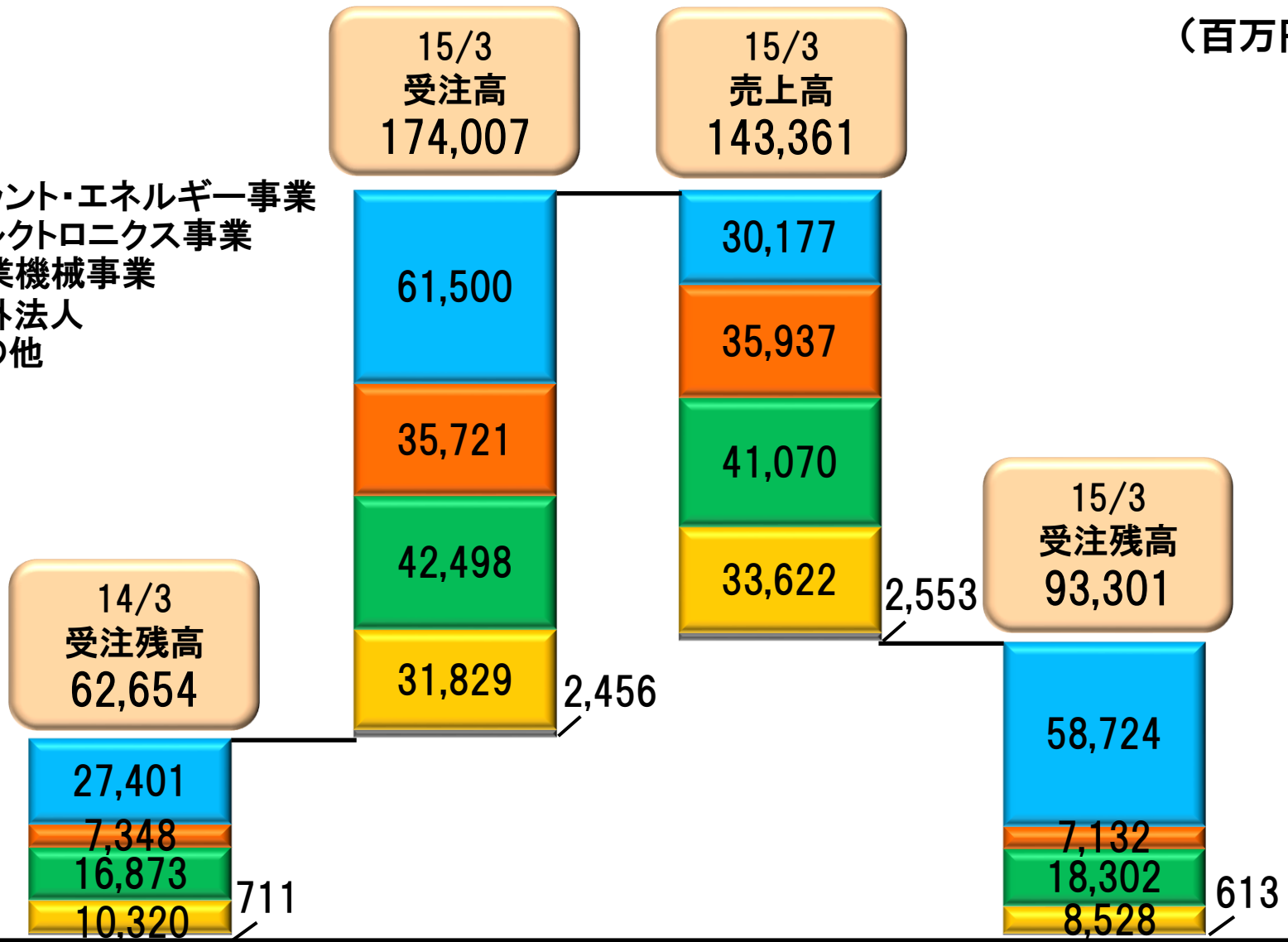
(百万円)

	14/3	15/3	増減
プラント・エネルギー事業	28,343	30,177	+1,834
エレクトロニクス事業	30,340	35,937	+5,596
産業機械事業	36,514	41,070	+4,555
海外法人	24,497	33,622	+9,124
その他	2,406	2,553	+147
合計	122,102	143,361	+21,258

セグメント別受注高および受注残高(連結)

(百万円)

- プラント・エネルギー事業
- エレクトロニクス事業
- 産業機械事業
- 海外法人
- その他

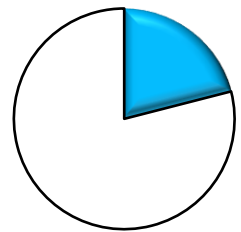


プラント・エネルギー事業(連結)

事業内容

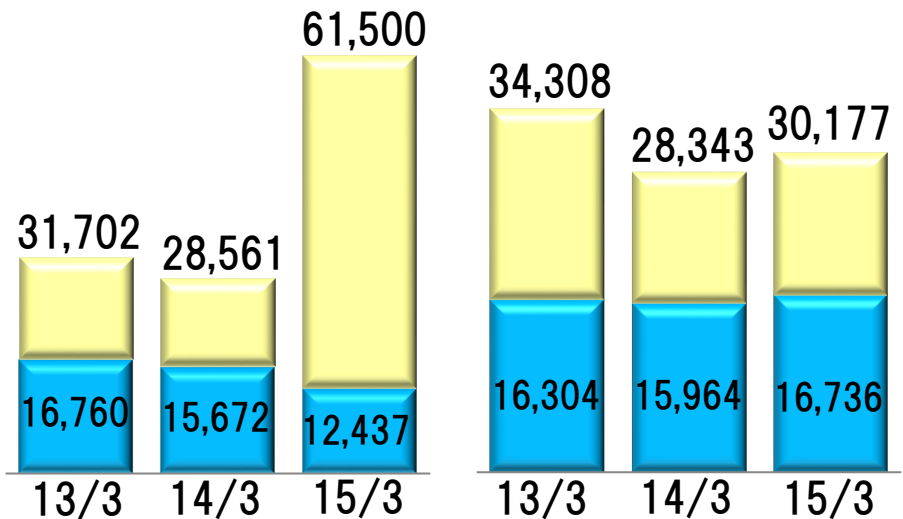
プラント・エネルギー事業では、エネルギー開発分野(物理探鉱機器・解析ソフトウェア、陸上・海上用掘削リグ等)、生産・精製分野(石油ガス・地熱生産地上システム、廃熱・風力・太陽光発電、石油精製プラント、石油化学プラント、エンジニアリング等)、製紙分野(製紙プラント等)に関連する機器・設備を取り扱っております。

受注高 61,500百万円(前期比 115.3% 増)
売上高 30,177百万円(前期比 6.5% 増)



受注高

売上高



事業概況

- ・受注高は、国内向け発電所用設備および大手エンジニアリング会社経由の海外向けプラント用設備の大口受注により大幅に増加した。
- ・売上高も、海外向け肥料プラント用設備や石油会社向けのエチレンプラント用設備等の既受注案件の納入があり増加した。
- ・今後は東南アジアおよび欧州で予定されている大手化学プラント建設プロジェクトの受注活動を推進するとともに、引き続きバイナリー発電装置をはじめとする再生可能エネルギー分野への深耕を図っていく。

バイナリー発電装置ビジネスについて



- ・2014年4月に米国アクセスエナジー社より日本国内における独占的製造権および東南アジア地域における装置販売権を取得し、2015年度中に日本国内での製造を開始予定です。
- ・昨秋に国内各電力会社による再生可能エネルギー接続申し込みの回答保留がありましたが、地熱・温泉案件については年明けから個別に協議が再開されました。
- ・九州地区を中心に地熱・温泉発電案件での引き合いが多くあります。再生可能エネルギー買取制度施行後は、大分県別府市にて最大規模(500kw)のバイナリー発電所が稼働中です。



	稼働台数	建設台数	合計台数
焼却プラント向け	6	1	7
地熱・温泉向け	5	11	16

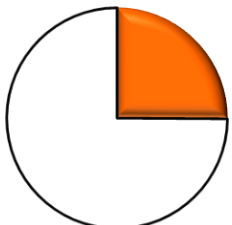
2015年4月現在

エレクトロニクス事業(連結)

事業内容

エレクトロニクス事業では、電子部品実装機(SMT)をはじめとする半導体・液晶モジュール組立関連装置、各種検査機器、周辺機器を取り扱っております。

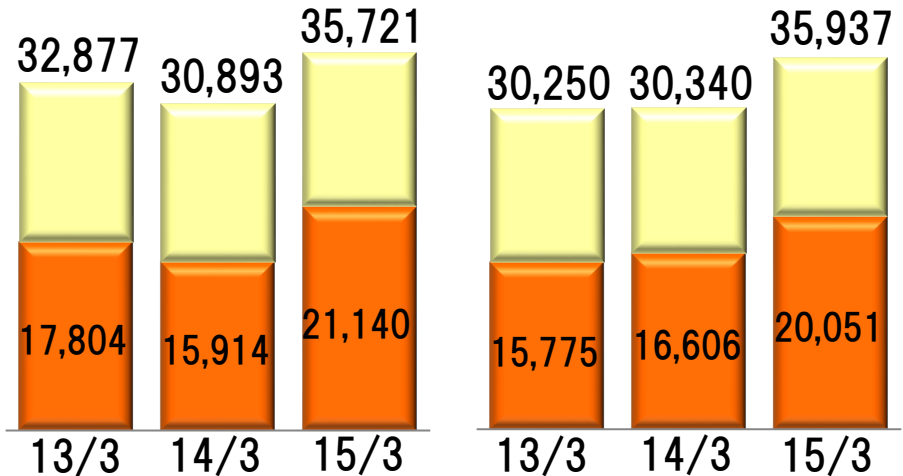
受注高 35,721百万円(前期比 15.6% 増)
売上高 35,937百万円(前期比 18.4% 増)



受注高

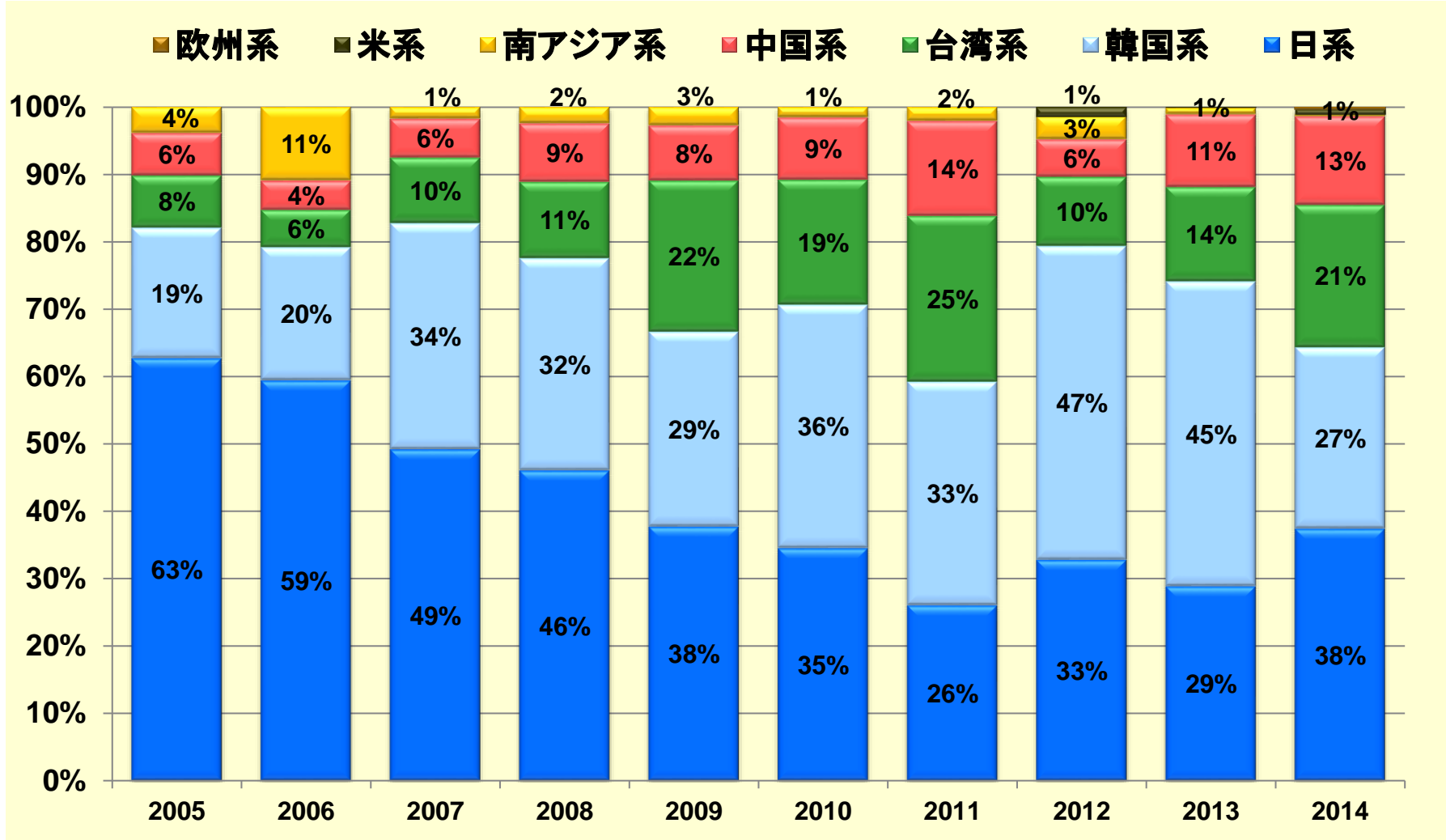
売上高

事業概況



- ・中国・ベトナム向けを中心にIT・デジタル関連機器向けの電子部品実装機等の需要が好調に推移し、受注高・売上高ともに増加した。
- ・スマートフォンやタブレット端末の生産量は総じて今後も伸びる傾向にあり、その生産設備需要には引き続き応えていくが、一方、携帯端末の生産量は、短期的な需要動向に左右される傾向にあるため、今後はエレクトロニクス事業の安定化に向け、自動車エレクトロニクス分野にも一層注力していく。

電子部品実装装置 顧客資本系列別納入比率



事業内容

産業機械事業では、自動車関連業界・食品関連業界向けに射出成形機・押出成形機・真空成形機・塗装機器等、医薬品関連業界向けに錠剤検査機器等、航空関連業界向けに航空機用デアイサー・トーイングトラクター・消防関連特殊車両・除雪車等、二次電池関連業界向けに焼成炉等を取り扱っております。

受注高 42,498百万円(前期比 12.8% 増)

売上高 41,070百万円(前期比 12.5% 増)

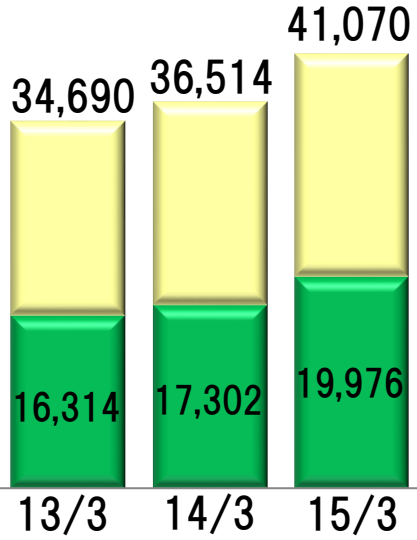
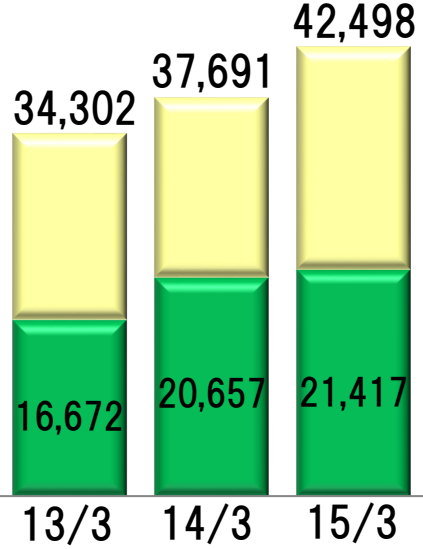


総売上高比率
28.6%

受注高

売上高

事業概況



- ・メキシコを中心に自動車関連業界向け自動組立ライン、自動加工機、塗装ロボット等の設備需要が堅調に推移。また製薬業界向け医薬品充填装置や官公庁向け防災関連機器の売上等もあり、受注高・売上高ともに増加した。
- ・設備単品の販売案件は減少傾向にあり、工場インフラを含めた複合案件が新興国をはじめとする海外において増加傾向にあるため、総合機械商社として総合エンジニアリング機能の一層の高度化を図る。

日本再興戦略への寄与:ドラゴンハイパー・コマンドユニットの配備



- ・総務省は、東日本大震災で発生したような石油コンビナート災害をはじめとする特殊災害対応に特化したエネルギー・産業基盤災害即応部隊(ドラゴンハイパー・コマンドユニット)の創設を決定いたしました。これを受けて、一部の自治体向けに関係設備(左記の車両)を納入いたしました。今後もこのような防災関連機器の商材を開拓し、災害対策への取り組みを支援してまいります。

製薬業界向け新商品:錠剤印刷検査システムの開発・販売

- ・医薬品業界において世界トップシェアを誇る第一実業ビスウィル製錠剤外観検査システム。本装置に錠剤インクジェット印刷機能を搭載した新商品「錠剤印刷検査システム」の販売を開始いたしました。
- ・従来、錠剤印刷と錠剤検査は別々の工程でありましたが、これらの作業工程が一つの設備に集約されることにより生産効率の向上および省スペース化の実現が期待されます。

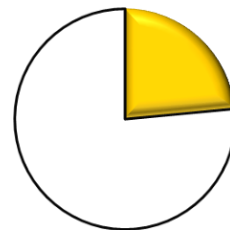


事業内容

世界四軸体制を構成する海外現地法人は、当社が国内で取り扱っている各種機械・機器の販売をするほか、それぞれのエリアでの直接仕入れ・販売も行っております。

受注高 31,829百万円(前期比 15.1% 増)

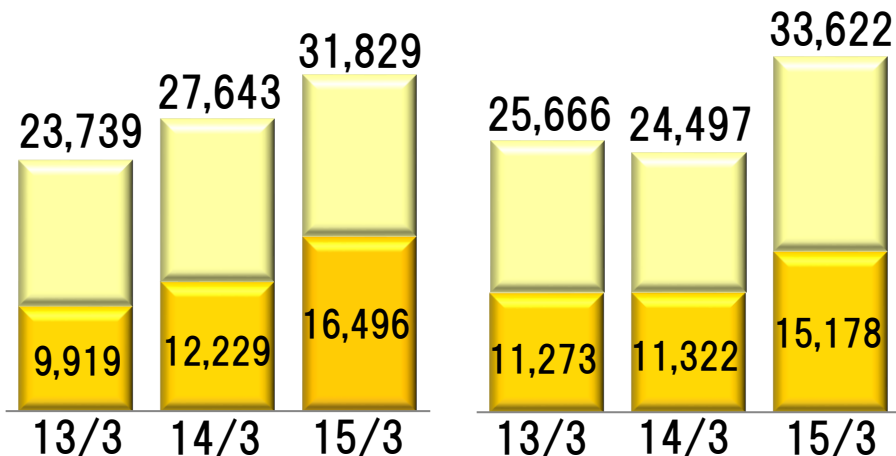
売上高 33,622百万円(前期比 37.2% 増)



総売上高比率
23.5%

受注高

売上高



事業概況

- ・アジア地域における電子部品実装関連設備および車載関連機器の製造装置等の販売が好調に推移した。
- ・また、欧州において自動車関連業界向け設備等の大口案件の納入があったため、受注高・売上高ともに増加した。
- ・引き続き経済成長が見込まれる新興諸国を中心とする海外の設備需要に对应していくとともに、コストおよび品質の両面からグローバル規模での最適な設備調達を推進し、総合エンジニアリング機能の向上を強化する。

超薄膜DLC対応プラズマCVD装置について



ハードディスクはパソコンやサーバー、DVD/BDレコーダー、カーナビゲーション等の記憶装置として一般的に広く使用されておりますが、当社にて取り扱っている超薄膜DLC対応プラズマCVD装置は、これらのハードディスクを製造する設備の一つです。

本装置は、ハードディスク製造の最終工程において表面上にDLC(ダイヤモンドライクカーボン)と呼ばれる硬質膜をコーティングする装置で、この工程によりハードディスクが衝撃によって破損することを防止します。

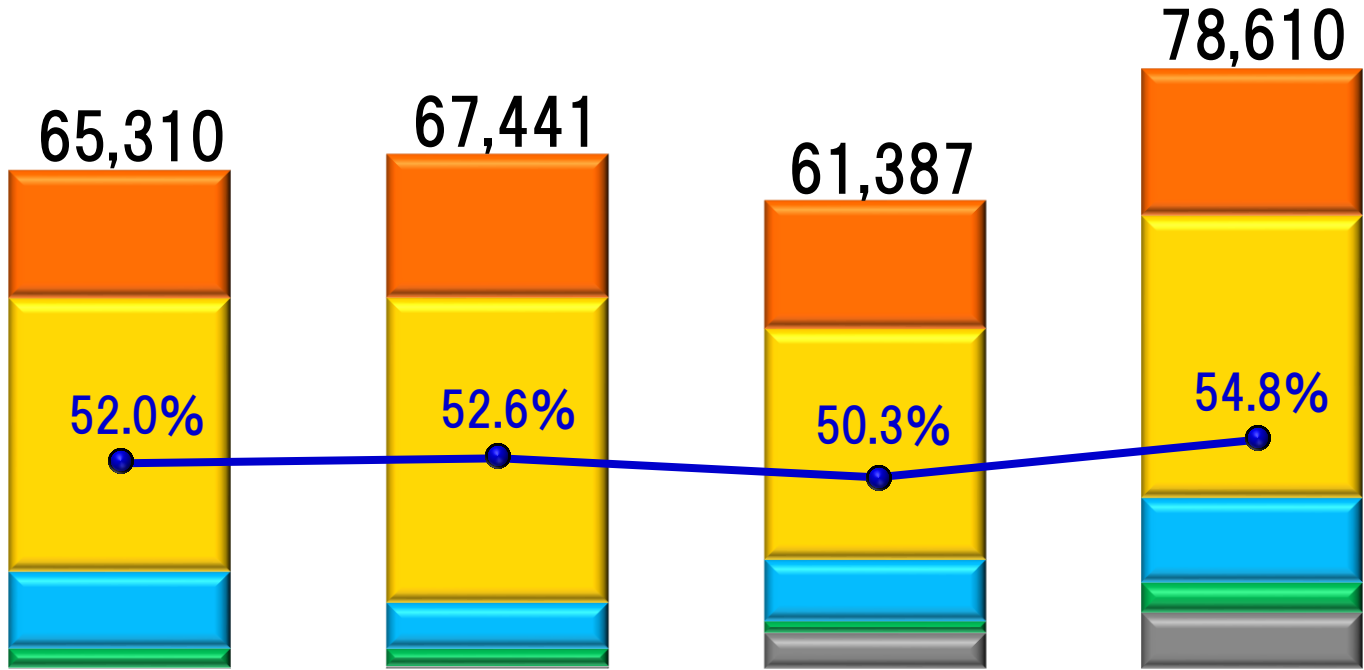
現在、世界中で使用されているハードディスクの約50%は当社が販売した本装置によって製造されております。

DLCは、高硬度、高耐摩耗性、低摩擦性、高絶縁性、高化学安定性等、多くの特長を有するため、ハードディスク製造だけでなく、自動車部品をはじめとした他の工業分野においても応用されております。

引き続き本装置のシェア拡大を目指し、販売に注力してまいります。

海外売上高(連結)

- 中国
- 東南アジア・インド
- 米州
- 欧州
- その他
- 総売上高比率



(百万円)

	12/3		13/3		14/3		15/3	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
中国	16,707	25.6%	18,780	27.8%	16,803	27.4%	19,215	24.5%
東南アジア・インド	35,939	55.1%	40,059	59.4%	30,361	49.5%	37,056	47.1%
米州	10,058	15.4%	6,035	9.0%	8,068	13.1%	11,116	14.1%
欧州	2,551	3.9%	2,289	3.4%	1,527	2.5%	3,946	5.0%
その他	54	0.0%	276	0.4%	4,626	7.5%	7,276	9.3%
合計	65,310	100.0%	67,441	100.0%	61,387	100.0%	78,610	100.0%
総売上高比率	52.0%		52.6%		50.3%		54.8%	

1. 2015年3月期 決算概要
2. 事業概況
3. 2016年3月期 業績見通し
(中期経営計画最終年度)

◆ご参考資料

2016年3月期 業績見通し

(百万円)

	15/3 実績	16/3 見通し	増減
受 注 高	174,007	160,000	△14,007
売 上 高	143,361	155,000	+11,639
営 業 利 益	4,341	5,500	+1,159
経 常 利 益	4,752	5,700	+948
当 期 純 利 益	2,897	3,700	+803
1株当たり当期純利益	54.46円	69.29円	+14.83円

2016年3月期 セグメント別受注高および受注残高見通し(連結)



(百万円)

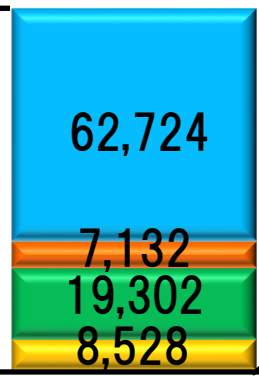
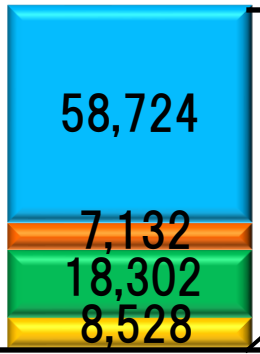
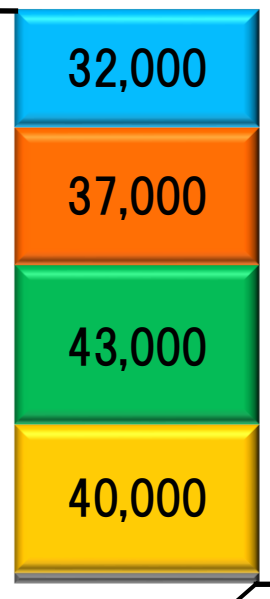
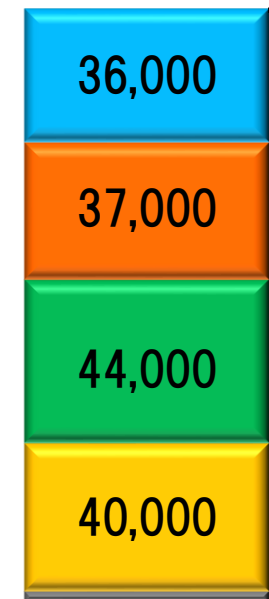
- プラント・エネルギー事業
- エレクトロニクス事業
- 産業機械事業
- 海外法人
- その他

16/3
受注高
160,000

16/3
売上高
155,000

15/3
受注残高
93,301

16/3
受注残高
98,301



AIM2015

Aggressive Innovation for Multi-functional Global Business

多機能性を持ったグローバルビジネスへの積極的革新！



多機能性を持ったグローバルビジネスへの積極的革新！

定量目標（連結経営目標）

	13/3 実績値	16/3 目標値
売上高	128,229	155,000
営業利益	4,590	5,500
経常利益	4,925	5,700
当期純利益	3,051	3,700
総資産	81,478	92,000
自己資本	28,861	36,000
有利子負債	7,486	8,000
ROE (%)	11.2	10.7

定性目標（基本方針の内容）

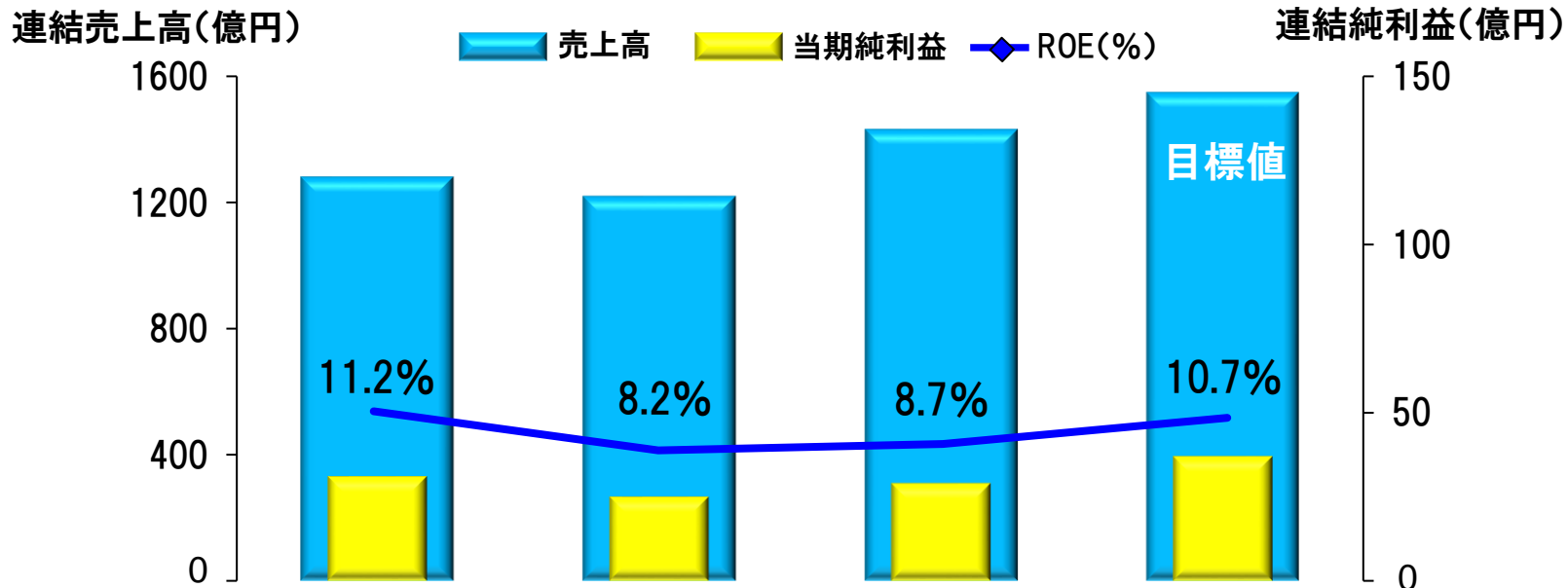
I. 事業軸経営への移行によるビジネスの拡大

- ① グローバルなビジネスを徹底捕捉
- ② 広範囲な営業力とエンジニアリング集団としての強み、高付加価値の創造

II. 事業軸経営への移行と経営強化・効率化の推進

- ① 事業軸経営システムの整備・転換
- ② 意識改革および人財の育成
- ③ 財務体質の更なる強化

「AIM2015」 定量目標:2016年3月期に向けての進捗



(単位:百万円)

	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3(目標)
売上高	128,229	122,102	143,361	155,000
営業利益	4,590	4,074	4,341	5,500
経常利益	4,925	4,475	4,752	5,700
当期純利益	3,051	2,459	2,897	3,700
総資産	81,478	81,443	91,835	92,000
自己資本	28,861	31,104	35,214	36,000
ROE(%)	11.2%	8.2%	8.7%	10.7%

「AIM2015」定性目標:事業軸経営への移行

旧体制
(地域軸制)

プラント・エネルギー
事業本部

産業機械・航空事業本部

エレクトロニクス
事業本部

名古屋事業本部

大阪事業本部

海外地域統括会社

国内関係会社

新体制
(事業軸制)

東京本社

名古屋支社

大阪支社

海外地域統括会社

上海一実貿易
有限公司

第一実業
アジア

第一実業
米国

第一実業
欧州

国内関係会社

第一
メカテック
(株)

第一実業
ピスウィル
(株)

プラント・エネルギー事業軸

産業機械事業軸

エレクトロニクス事業軸

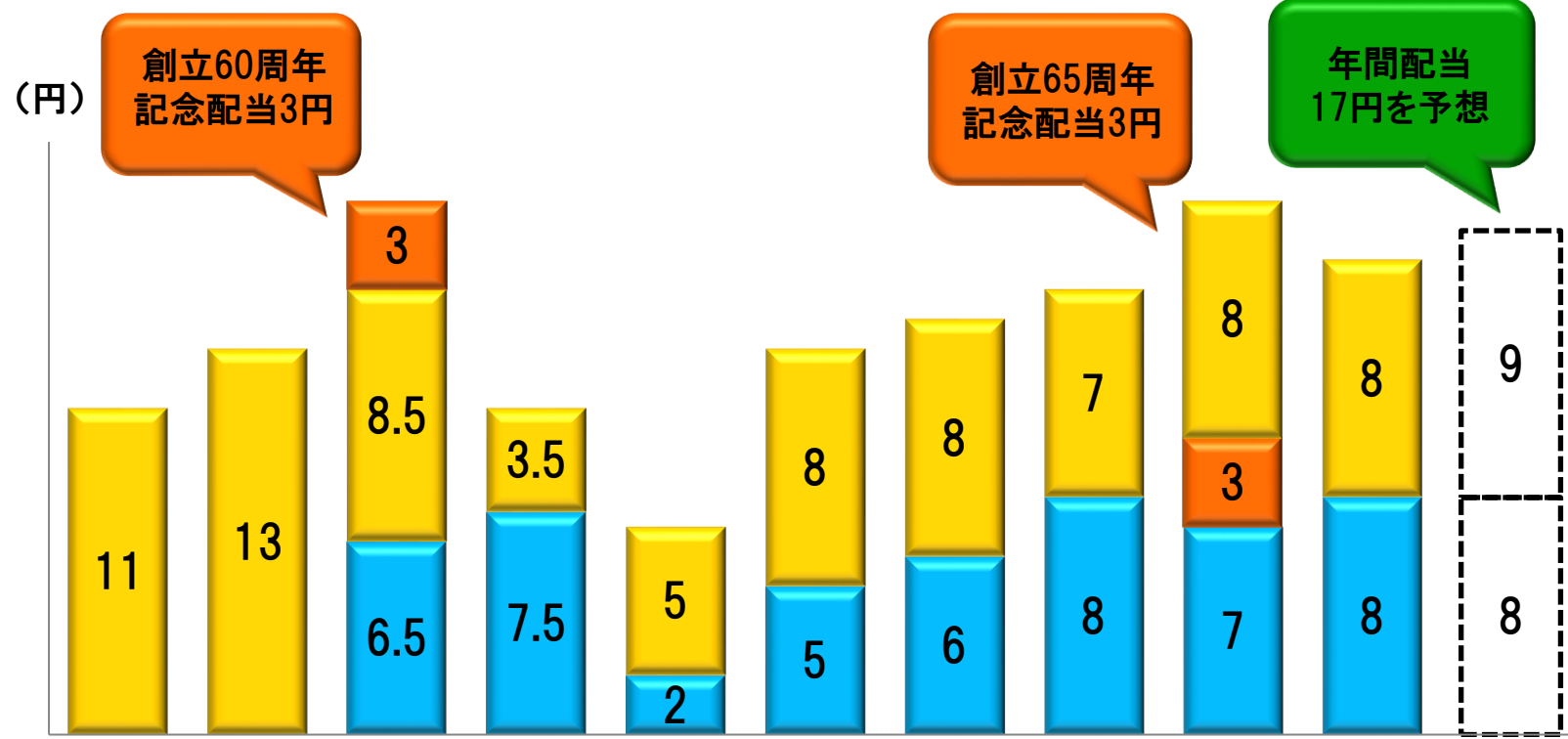
ファーマ事業軸

航空事業軸

配当金の推移・配当性向

■ 当社は、業績に応じた適正な配当を実施することを基本方針としており、株主・役職員・会社と三位一体のバランスのとれた利益配分を念頭に置いております。内部留保は中長期的展望に立って効率的に活用してまいります。

■ 中間配当 ■ 期末配当 ■ 記念配当



	06/3	07/3	08/3	09/3	10/3	11/3	12/3	13/3	14/3	15/3	16/3
配当性向: 連結(%)	27.2	27.5	34.1	42.7	100.4	27.7	27.7	25.9	38.8	29.4	24.5 (予想)

本社移転についてお知らせ

平成27年6月29日に本社を移転いたします。
 新組織(事業軸)体制への移行に伴い、機能的な
 オフィス空間を創出し、業務環境の改善および
 生産性の向上を推進してまいります。

【新住所】

〒101-8222

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地 御茶ノ水ソラシティ17階

【新TEL・FAX】

TEL : 03-6370-8600(代) FAX : 03-6370-8601(代)



ご清聴ありがとうございました

お問合せ先 IR・広報部

TEL: 03-5214-8611 FAX: 03-5214-8503

E-MAIL: djk_ir@djk.co.jp

HOME PAGE: <http://www.djk.co.jp/>

東京都千代田区二番町11番19号



第一実業株式会社

本資料に記載されている当社の業績見通し、経営目標、その他歴史的事実でないものは、現時点での入手可能な情報に基づき、将来の業績に関する見通しを示したものです。実際の業績は様々な要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

◆ご参考資料

1 会社概要



2 創業の精神



3 DJKの歩み
since
1948



4 ネットワーク展開



5 ソリューション
ビジネス



6 直近15年の
経営成績

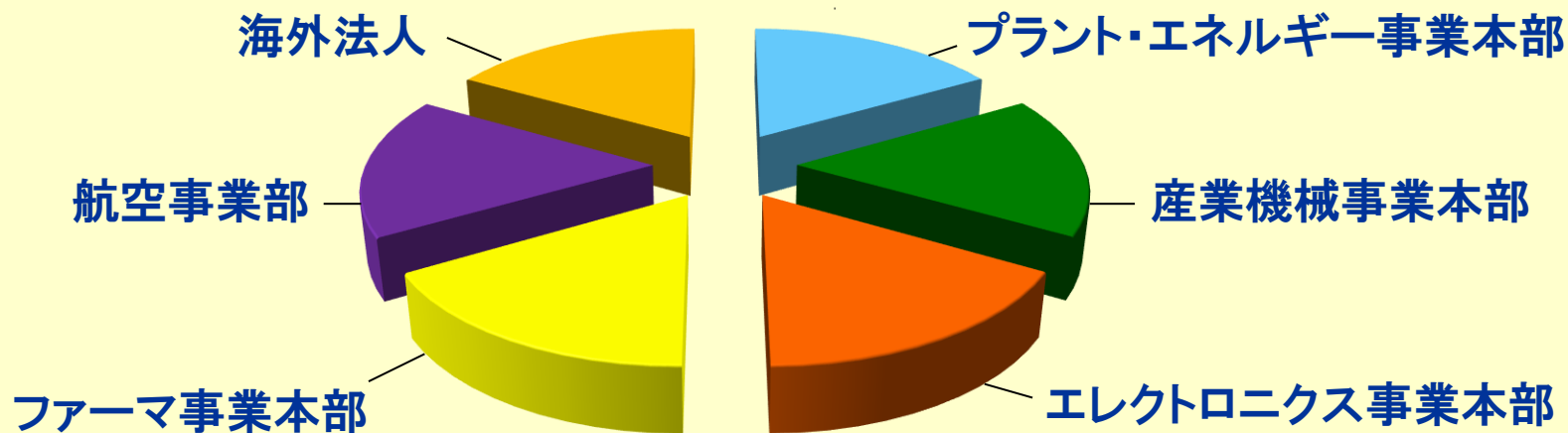


7 CSR



当社は、**各種産業用機械のトップサプライヤー**として**グローバル**に活動を行っている**総合機械商社**です。

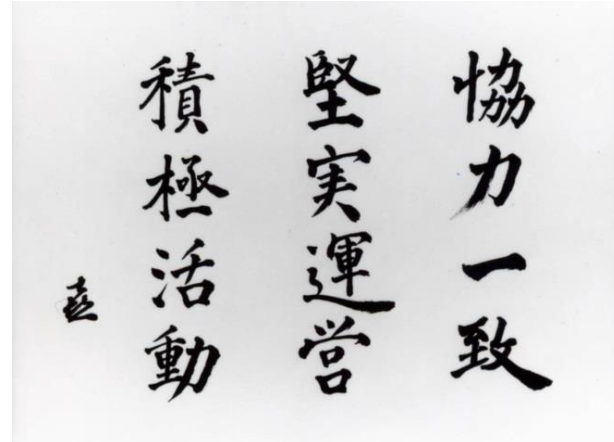
社名	第一実業株式会社
設立	1948年8月
資本金	5,105百万円
従業員数	単体 419名 連結 1,080名
グループ会社	国内 9社 海外 20社
事業所	国内 8拠点 海外 36拠点



脈々と受け継がれる創業の精神



初代社長 倉持正次郎



創業後に制定された社是三原則。創立65年を過ぎた現在もなお企業風土に脈々と受け継がれております。

第二次世界大戦終結後、さまざまな産業分野を独占していた財閥が解体され、市場に競争原理が導入されました。このときに解体された「浅野財閥」に関わる人財の中から、後の第一実業株式会社の創業メンバーが輩出されました。

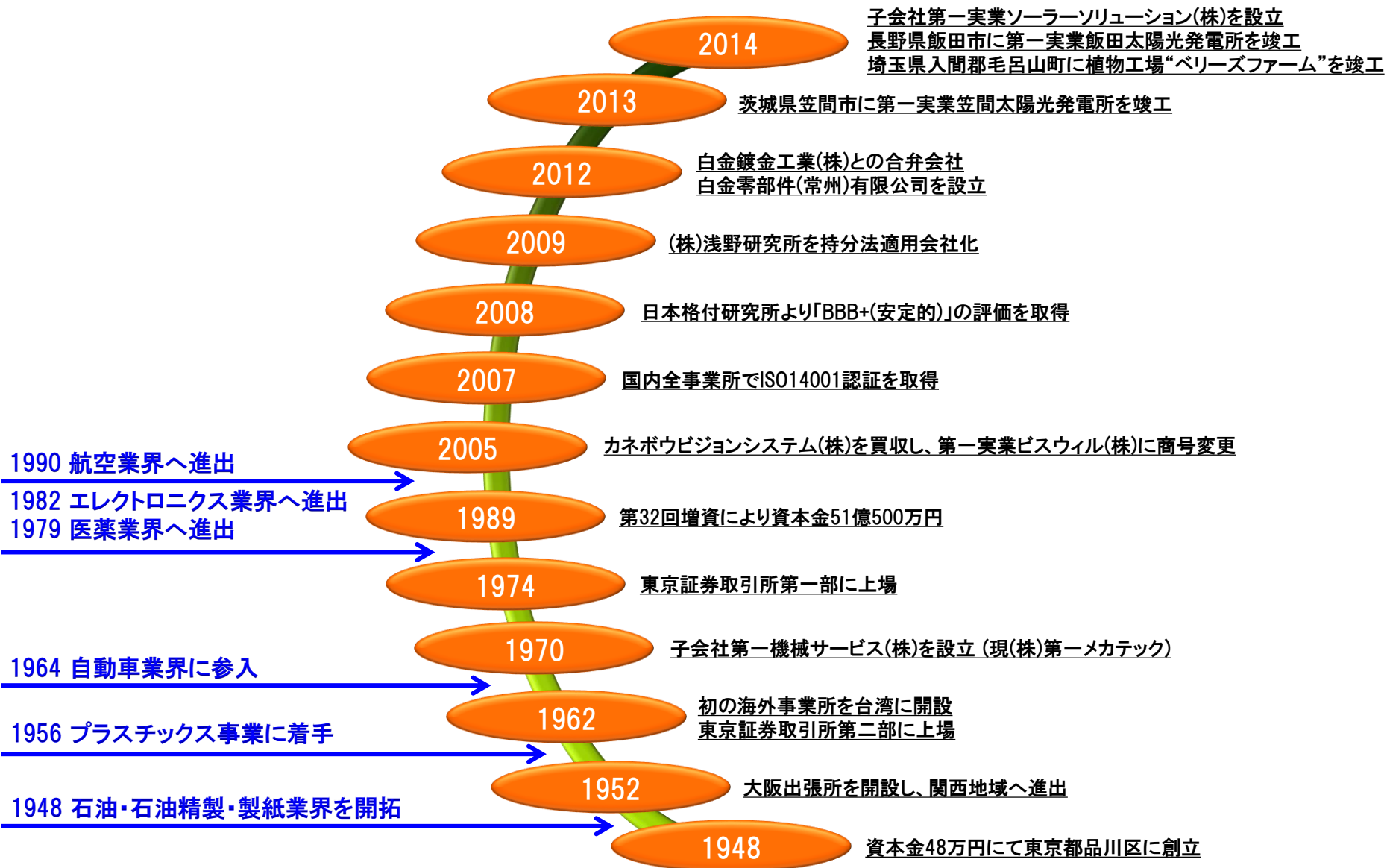
1948年(昭和23年)8月12日、後に初代社長となる倉持正次郎を含む全7名を発起人として会社を設立。商号を「**第一実業**」と定め「**機械専門の商事会社**」としての一步を踏み出しました。

倉持は、当時横行していた闇取引を一切認めず、下記のことを徹底いたしました。

1. 機械の売り買いのみに徹する
2. 大企業・一流企業を取引相手とする
3. 銀行との信頼関係を大切にする

投機性のない商売を地道に続け、信頼できる相手を選び、毎月銀行に業績報告し続けた結果、当社は**誠実で堅実な企業**として周囲の信頼を獲得し、着実に成長してまいりました。

このような精神は、現在の当社に深く根付いております。



海外事業所



米州

- シカゴ
- ヒューストン
- ノックスビル
- プエルトリコ
- ケレタロ

- サンパウロ
- マナウス

中国

- 上海
- 天津
- 蘇州
- 広州
- 重慶
- 香港
- 深圳
- 武漢
- 瀋陽
- 常州

東南アジア・インド

- シンガポール
- バンコク
- ホーチミン
- マニラ
- ニューデリー
- ピンツル
- クアラルンプール
- ジャカルタ
- ハノイ
- ラグナ

- バンガロール
- アーメダバード
- 台北
- ソウル
- ドーハ

欧州

- フランクフルト
- プラハ
- ブダペスト

国内事業所

● 株式会社第一メカテック

産業用各種機械器具のメンテナンス・アフターサービス

● 第一実業ソーラーソリューション株式会社

太陽光発電プラントのオペレーションおよびメンテナンスサービス

● 富山出張所

● 株式会社浅野研究所

プラスチック真空成形機の製造・販売

● 名古屋支社

● 大阪支社

● 広島支店

● 福岡支店

● 第一実業ビスウィル株式会社

外観検査装置の開発・製造・販売

● 札幌支店

● 東北支店

● 第一スルザー株式会社

紙・パルプ製造加工用ポンプ、関連機器の製造・販売

● キャメロンジャパン株式会社

石油・ガス生産用機器および装置の設計・製作・販売

● 第一エンジニアリング株式会社

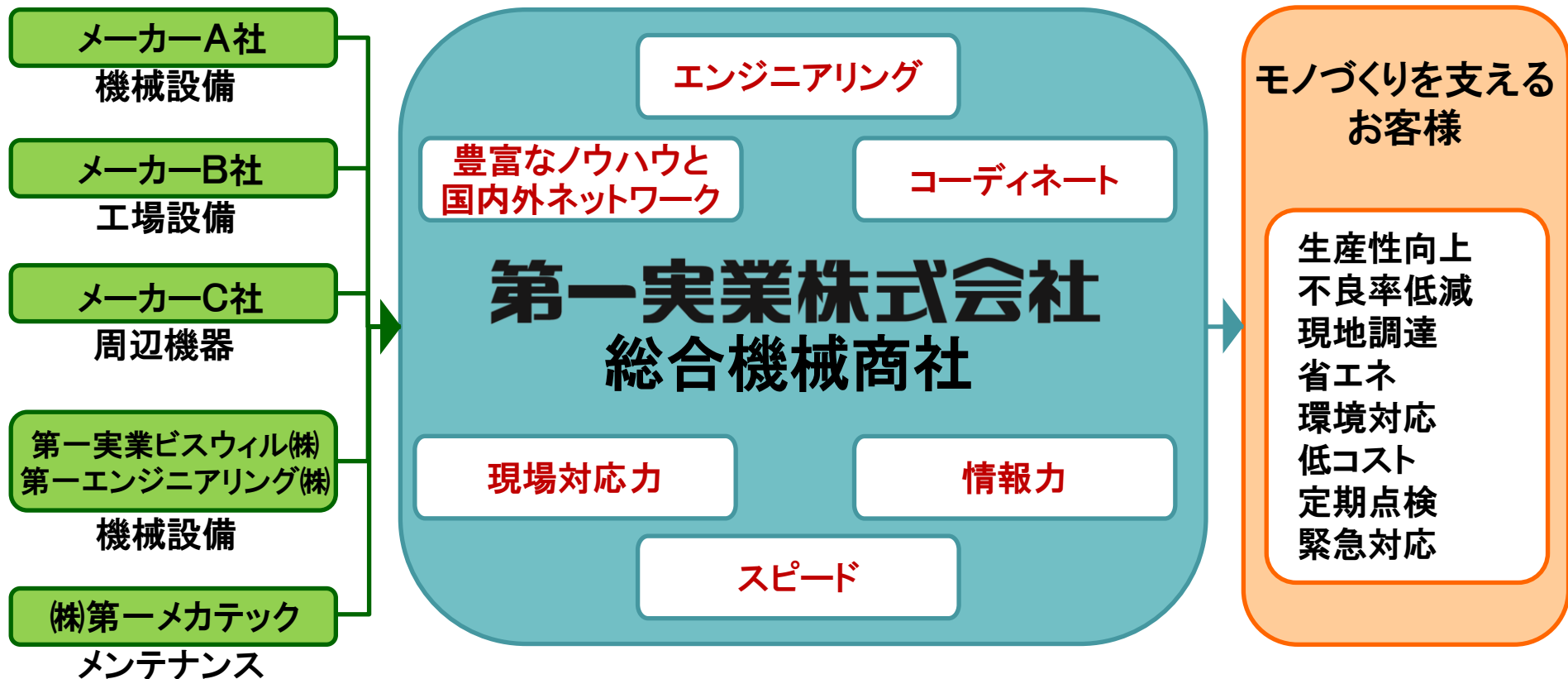
熱電併給、原動機等機械装置システムの開発・設計・施工・販売

● 株式会社フロー・ダイナミクス

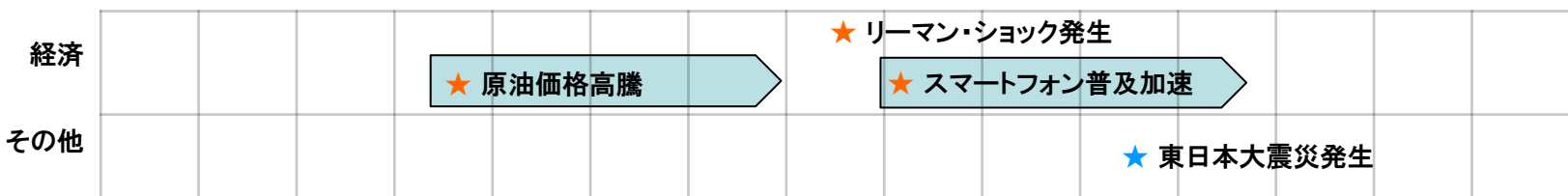
産業用各種機械器具の製造・販売

● 本社

お客様の利益に貢献するグローバル・ビジネス・パートナー

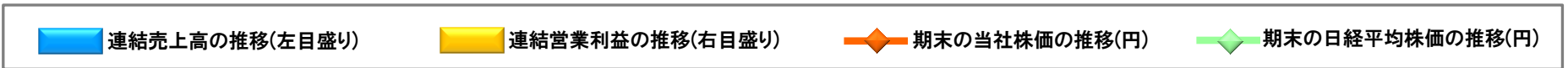
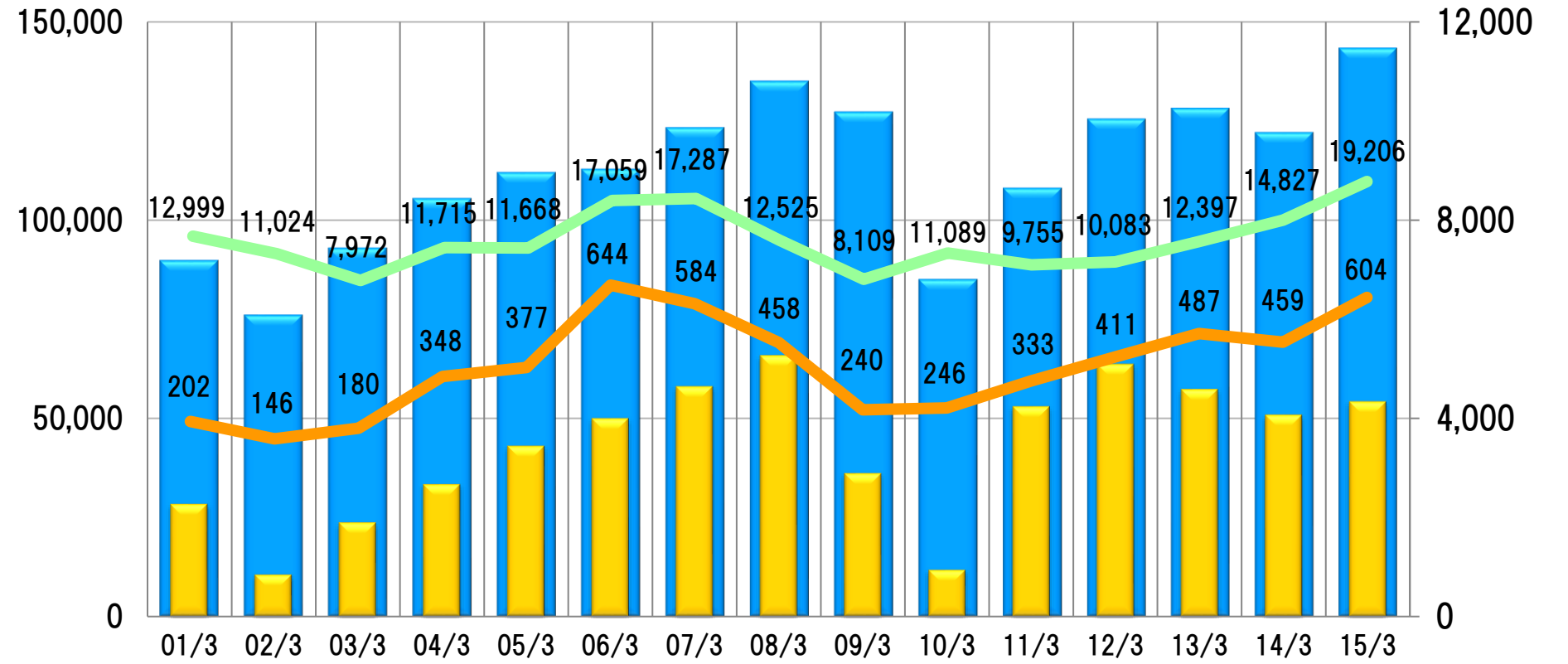


6 直近15年の経営成績



(連結売上高:百万円)

(連結営業利益:百万円)



当社グループは世界に通用する優良企業を目指して社会的責任の役割を果たし、ステークホルダーの皆様とともに持続的な社会の実現してまいります。

安全で良質な商品・サービスの提供による顧客満足度の向上

コーポレート・ガバナンスの充実
および内部統制システムの整備・強化

環境配慮商品の積極的拡販

株主価値の向上

ステークホルダー等に対する
積極的情報開示

地域社会活動の貢献

社会貢献活動

未来のエンジニアを育成



当社は総合機械商社として、子供たちに“ものづくり”の楽しさを伝えるため、ロボット教室、ロボットコンテストへの協賛を行っております。未来の“ものづくり”を担う子供たちが科学技術を身近に体験しながら、創造性と問題解決力を育成できる活動の場となるよう支援してまいります。

その他の社会貢献活動

日本赤十字社への寄付

国内外の災害地域への義捐金の拠出

ユニセフへの外国コイン募金活動

エコキャップ活動

近隣小学校へのニュース掲示板の寄贈等

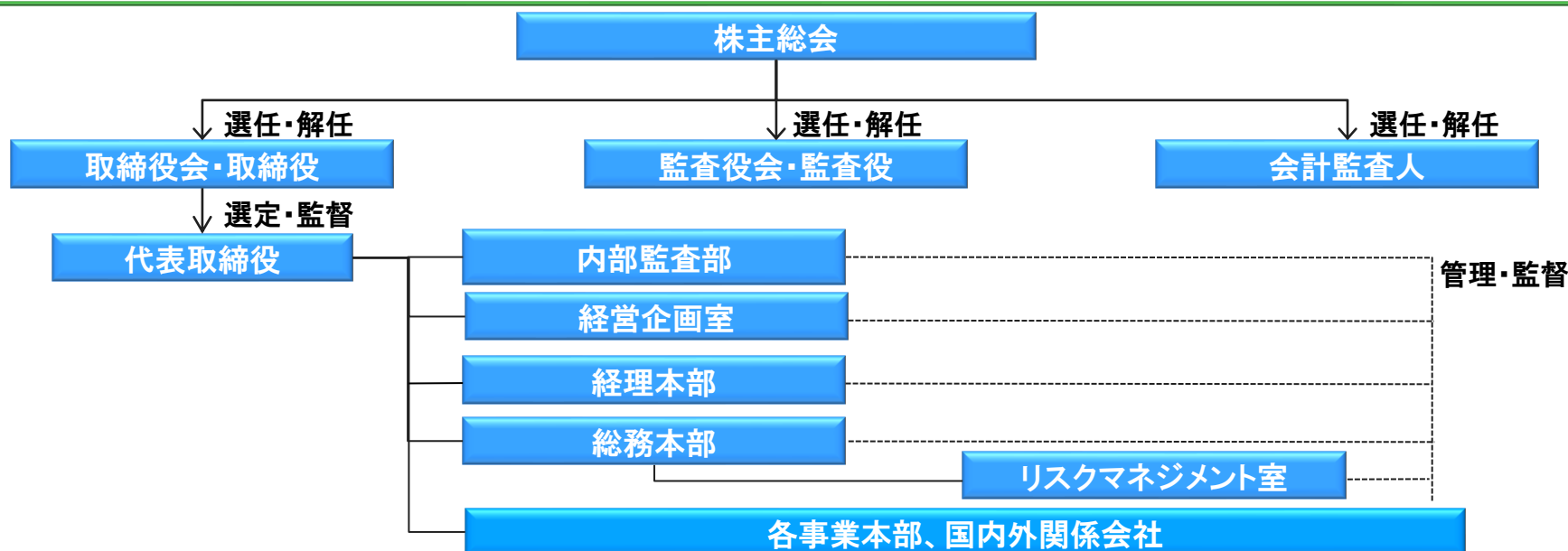
人財育成

ナショナルスタッフへの研修



企業のグローバル展開が進む中、当社グループでは1,000名を超える社員が世界各地で働いております。海外のナショナルスタッフに対し、定期的に当社の企業理念や経営方針をテーマとした研修を行うことにより、企業文化の浸透や海外事業の強化を図ってまいります。

コーポレート・ガバナンス



投資家の皆様に対する行動規範

ディスクロージャー

役職員は投資家の皆さまに対し、投資判断に関わる重要な情報を正確にお伝えしてまいります。それらの情報の多くは、投資家の皆さまが理解しやすい形で公表いたします。

正確な記録

ディスクロージャーの前提は、正確な記録です。ビジネスに関するあらゆる情報は、法令・ルールに従い、正しく記録いたします。

内部監査の重視

当社は、投資家の皆様の利益を守るため、中立的な観点からビジネスのあり方をチェックする内部監査システムを整備し機能させてまいります。

投資家とのコミュニケーション

投資家の皆様には、私たちが「利益と倫理が相反する場合、倫理を選択すること」を確認し、それが結果として会社の利益になることをお伝えしてまいります。